



daitobo

スペシャル・

インタビュー

「発想力を活かし 無限大の可能性へ」

代表取締役社長

山内一裕

女流棋士

室谷由紀

今年度に入り、中学生プロ棋士で連勝記録を更新した藤井聡太四段や“ひふみん”の愛称で人気のある加藤一二三九段、さらに12月には羽生善治竜王が史上初の永世七冠の資格を得るなど将棋が注目

される中、今回は、日本将棋連盟の室谷女流二段にお越し頂き、当社グループの経営に関するテーマを幅広く山内社長にインタビューして頂きました。

代表取締役社長 山内一裕

室谷由紀女流二段

日本将棋連盟所属の女流棋士。14歳で関西女流アマ名人戦優勝。2009年女流プロ入り後、2016年マイナビ女子オープンでタイトル初挑戦。大阪府出身。2017年10月大阪府狭山市観光大使に就任。NHK将棋番組などテレビ・イベント出演多数。



室谷

将棋は大局観・構想力などと並んで「序盤の発想力」が大切だと言われます。また、棋士は盤上の81マスに「無限の可能性」を追求するとも言われます。ダイトウボウグループのシンボルマークのテーマ「発想力を活かし無限大の可能性へ」は、こうした将棋の考えにも通じるものを感じますが、どのような意味を込めて作られたのですか？

室谷

ダイトウボウグループの歴史は創立122年目を迎え、事業会社として相当の歴史を感じます。この歴史の重みについてどう感じますか？

山内

日本の将棋の歴史約1,000年には遠く及びませんが、株主様はじめ顧客や取引先の皆様への感謝の気持ちと、曲がりなりにも今まで歴史を紡ぎあげて来たという自負の気持ちは、社員一同が共有しているところです。

次期中期経営計画では、復配も視野に、当社グループの成長を確実なものとしてお示ししたいと思っています。

室谷

最後になりますが、将棋と会社経営の共通点のようなものがあればお聞かせください。

山内

無から有を生む「発想力」、そこからの「無限大の可能性」はビジネスそのものに通じると考えています。また、将棋のもうひとつの重要な要素である「大局観」は、経営にとっても重要な要素です。これからAIの進化とともに、世の中の仕組みが大きく変わっていく中で、人間の可能性をさらに広げるべく大局観を持って先を読んだ経営を心掛けたいと思っています。また、社内の行動指針に掲げている「3手先を読む」は将棋用語であり、将棋用語は実際にビジネスの現場で数多く活用されています。当社としては、今後、社内研修の一環としても将棋を取り入れることで、人材育成に役立てたいと考えています。

室谷

ありがとうございました。山内社長のお話を伺い、歴史あるダイトウボウグループのさらなる



山内

daitobo (シンボルマーク)の末尾の「bo」を無限大のインフィニティをモチーフとしてロゴ化し、また、「i」の文字を人に見立てて、頂点の●は柔軟な発想力のアタマをイメージしました。これにより、当社グループが「発想とヒト」を武器に持続的な企業価値の向上を進め、人々の豊かな生活に寄与するとの想いを込めました。おっしゃる通り、「発想力」と「無限大の可能性」というキーワードは、将棋に通じるものがあると思っています。

室谷

ところで、現在進めている「中期経営計画 Bridge to the Future ~未来への架け橋~」は今年度が最終年度ということですが、来年度以降に向けた取り組みについてお聞かせください。

山内

現在、次期中期経営計画の策定作業中ですので、具体的なこととお話しできる段階ではありませんが、商業施設事業において追加開発の予備検討を進めています。また、ヘルスケア事業においては資本業務提携先との連携を強化するとともにM&Aなども検討対象にすることで、事業の柱の一つに育てたいと考えています。

可能性を感じました。将棋が、ダイトウボウグループの人材育成に役立つのであれば、とても嬉しいことです。今後も、「発想力を活かし無限大の可能性へ」向かって歩を進めていかれることを期待しています。

山内

私も、将棋には以前より興味があり、大変有意義なお話を聞かせて頂けたと喜んでます。これからも応援をよろしくお願いいたします。

